



11月29日月曜日、桜の聖母学院小学校にて令和2年度日本漢字能力検定最優秀団体賞の表彰式を開催していただきました。表彰式の様子をご紹介します。

この日からクリスマスまでの間、毎週月曜日に待降節の行事が催されます。表彰式はその冒頭で行われました。全校児童が見つめる中、漢検協会理事長 山崎信夫より児童代表のお二人に賞状と楯をお渡ししました。その後、3学期に漢検受検を控えた児童の皆さんに激励のメッセージをお送りしました。



表彰式の後、このたびのご受賞について武藤校長先生と中津教頭先生、日頃ご指導されている先生方にお話を伺いました。



（武藤校長先生）

桜の聖母学院小学校は漢検に向けた取り組みを学校全体で一本化し、一枚岩になっており、これが今回の受賞につながったのだと考えています。漢検が、学級単位ではなくて学校全体の大きな目標になっていることが大きかったのでしょう。

いうまでもなく漢検は、子どもたちひとりひとりが漢字に向き合い、漢字に取り組む大きな機会になっています。漢検があると子どもたちの意欲が高まります。それから、合格という目に見える形で自分の取り組みの結果がわかるのも検定ならではですね。

残念ながら不合格だとしても、また次にチャレンジすることができます。検定は他者と勝ち負けを競ったり比較したりするのではなく、自分自身との競争です。目標に向かってチャレンジすることは、子どもたちが成長していくうえでとても大事なことだと思います。

（2年生担任の先生）

1年生の子どもたちにとって初めての漢字検定でしたので、みんな張り切って受検し、当日受検した子どもたちは全員合格できました。合格証書を受け取った子どもたちはとても喜んでいました。漢字を覚えるだけでなく、形もきれいに書く意識を育てていきたいと指導してきました。全員合格したことを本当にうれしく思います。今年も9級に挑戦したいという意欲を持っている子がたくさんいますので、子どもたちと一緒に頑張ろうと思っています。

（5年生担任の先生）

このたびの受賞のお知らせいただきまして、本当にうれしく思いました。

私が受け持った4年生のクラスも全員合格できました。4年生は漢字の配当が最も多い学年ですから、みんなの喜びもひとしおでした。今年もその子どもたちを受け持っていて、「また挑戦しよう」と頑張っています。配当漢字はすべて終えていますので、今はとにかく反復反復の毎日です。「楽しんで漢字に挑戦しましょう」と声を掛けながら取り組んでいます。

